



※まえがき※

◆この取扱説明書には、この製品を安全に、正しくお使いいただくため、必ずお守りいただきたい注意事項が表示されています。  
注意事項は「危険」、「警告」、「注意」に区分されています。表示内容をよくご理解いただき本文をお読みください。

**⚠ 危険** この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、又は火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を表示しています。

**⚠ 警告** この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、又は火災のおそれが想定される内容を表示しています。

**⚠ 注意** この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が傷害を負うおそれや物的損害のみが発生が想定される内容を表示しています。

⚠ 注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつくおそれがあります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

1. 特に注意していただきたいこと

**⚠ 危険**

1. ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

2. 可燃性ガス雰囲気での使用禁止（防爆構造ではありません）

可燃性ガスが充満している雰囲気では絶対に使用しないで下さい。火災、爆発のおそれがあります。

3. 換気必要

換気を十分に行えない場所では使用しないでください。換気せずに使用し続けしないでください。酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生し、中毒になるおそれがあります。使用中は必ず換気をして新鮮な空気を補給してください。

**⚠ 警告**

1. スプレー缶厳禁

スプレー缶など密閉容器を加熱したり、熱の当たるところに置かないでください。熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発し、ケガをすることがあります。

2. 可燃性粉じん厳禁

可燃性粉じん（木くず、紙くず、繊維くすなど）が発生する場所では使用しないでください。ヒータ内に吸い込まれると加熱され火の粉になって吹き出されるので火災の原因になります。

3. 高温部に注意

燃焼中や、消火後約30分間は、ガードなど放熱部周辺に手など触れないようにしてください。やけどします。

4. 改造使用の禁止

改造して使用しないでください。故障・火災等の原因になります。

5. 子供・動物接近注意

運転中、子供や動物をヒータに近づけないでください。予期しない行動をして、やけどやケガをするおそれがあります。

7. 閉塞危険

衣類、紙などで温風吹出口や燃焼空気取入口、吸込フィルターをふさがしないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

8. 感電注意

雨水、雪などのかかる場所や湿度の高いところでは使用しないでください。感電するおそれがあります。日常の点検、手入れの際は必ず消火し、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

**⚠ 注意**

1. 設置

1-1 可燃物からの距離確保

可燃物は、放熱部の周囲および上方から2.5m以上離してください。火災の原因になります。

1-2 火災予防

ヒータの上または、ヒータの近くで洗濯物などを干さないでください。洗濯物などがヒータの上に落ち、火災の原因になります。

1-3 カーテン、可燃物接近禁止

カーテンや燃えやすい物のそばなどでは使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

1-4 人があたたまる目的以外使用禁止

衣類の乾燥や動植物の育成・栽培、人のいない場所では使用しないでください。予想しない事故が発生するおそれがあります。

1-5 水分のかかる場所での使用禁止、及び濡れた手での操作禁止

雨水、雪などのかかる場所では使用しないでください。また、濡れた手で操作しないでください。感電のおそれがあります。

1-6 標高の高いところでの使用時の注意

標高1000m以上の場所では使用する場合は調整が必要です。調整は販売店に相談してください。そのまま使用すると、異常燃焼や火災の原因になります。

1-7 ヒータ使用場所の制限

災害・傷害等を未然に防ぐために、次のような場所では使用しないでください。

- ・使用床面が振動する場所
- ・使用床面が傾斜している場所（水平でないところ）
- ・階段、非常口（避難口）、部屋の出入口等
- ・周囲に不安定な積荷のある場所
- ・風の強い場所や湿度の高い場所、ほこり・金属粉の浮遊している場所
- ・可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所
- ・窓の凍結などのため、換気が充分に行えない場所
- ・暖炉や押入れなど、ヒータが囲われる場所
- ・理・美容院、クリーニング店、はんだ付け作業所、メッキ・塗装工場などスプレーや化学薬品を使う場所（フロンガス、塩素系溶剤、エアートリートメント製品を使用する場所）
- ・その他、人の移動に障害となる場所等

2. 使用時

2-1 点火操作の繰り返し禁止

点火操作を3回繰り返しても着火しない場合は、それ以上操作を繰り返さないでください。火災の原因になります。使用を中止し販売店に連絡してください。

2-2 異常時使用禁止

臭い、煙の発生など異常燃焼を起こしたときは、直ちに使用を中止し、販売店に連絡してください。そのまま使用すると、火災の原因になります。

2-3 燃焼中移動禁止

ヒータを火のついたまま移動しないでください。やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災の原因になります。

2-4 移動時の注意

ヒータは火を消してから静かに運んでください。灯油がこぼれると火災の原因になります。

2-5 電圧注意

電圧は単相交流100V（90～110V）で使用してください。火災・感電・故障の原因になります。

2-6 電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込み、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。

2-7 アースコード未接続での使用禁止

アースコードを接続してください。接続しないで使用すると感電のおそれがあります。

2-8 電源プラグ引き抜き注意

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って行ってください。電源プラグが損傷し、感電やショートを起こして発火することがあります。

2-9 電源コード破損注意

電源コードは、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、挟みこんだり、加工しないでください。また、重いものを載せるなどの破損の原因となることは避けてください。火災・感電の原因になります。

2-10 タコ足配線禁止

タコ足配線はしないでください。火災の原因になります。

2-11 消火の確認

消火操作をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。

2-12 電源プラグ引き抜き消火禁止

電源プラグを引き抜いて消火しないでください。また、ヒータが完全に停止するまで電源プラグは引き抜かないでください。ヒータが過熱され、故障の原因になります。

2-13 使用時の周囲温度に注意

ヒータを使用するときは、 $-20^{\circ}\text{C}$ ~ $30^{\circ}\text{C}$ の周囲温度でお使いください。特に周囲温度が $30^{\circ}\text{C}$ 以上になりますとヒータが過熱され、火災の原因になります。

2-14 吸込フィルターの使用

吸込フィルターを取り外した状態では使用しないでください。内部にほこりがたまり、異常燃焼の原因になります。

小さいお子様にとくに注意していただきたいこと

2-15 温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

2-16 本体内に手や物をいれない

ガードや放熱筒など本体の中に手や可燃物・針金など異物を入れないでください。けがややけどを負ったり、火災・感電の原因になります。

2-17 ハンドルにぶらさがらない

ハンドルに寄りかかったり、ぶら下がらないでください。ヒータが横倒しになり、けがややけどを負ったり、火災の原因になります。

3. 給油時

3-1 給油時消火

給油は必ず消火してから行ってください。火災の原因になります。

3-2 居室内給油禁止

給油は必ず火の気の無いところで行なってください。火災のおそれがあります。

3-3 油量計の「満」を超えての給油厳禁

油量計の「満」を超える給油はしないでください。灯油があふれ火災の原因になります。

3-4 パーナ部に灯油をかけないで

給油時、パーナ部に灯油をかけないように注意してください。誤ってかけてしまったときは使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。そのまま使用しつづけると火災の原因になります。

4. 点検・手入れ・保管

4-1 ほこりの除去

吸込フィルターは週に1回以上必ず掃除してください。ごみ、ほこりなどが付着すると異常燃焼のおそれがあります。

4-2 保管時の注意

長期間使用しないときや、保管するときは電源プラグを抜き、必ず灯油を抜いて、傾けたり横倒しにしないでください。火災のおそれがあります。

4-3 分解修理・改造禁止

故障・破損したら、使用しないでください。不完全な修理や改造は危険です。

4-4 電源プラグのお手入れ

ときどきは電源プラグを抜きほこりや金属物を除去してください。湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。

5. その他

5-1 譲渡時の「取説」添付の励行

ヒータを譲渡するときは、「取扱説明書」を必ず添付してください。

5-2 無人運転時の注意

サーモスタット・タイマーを取り付けた場合、無人状態でも自動的に着火します。放熱部周辺に燃えやすい物がないか確認してください。火災の原因になります。

5-3 別売部品取付時の注意

別売部品を取り付けるときは、電源プラグを外して行ってください。工具などの金属部が電装品に触れますと、感電、破損のおそれがあります。

5-4 停電時高温注意

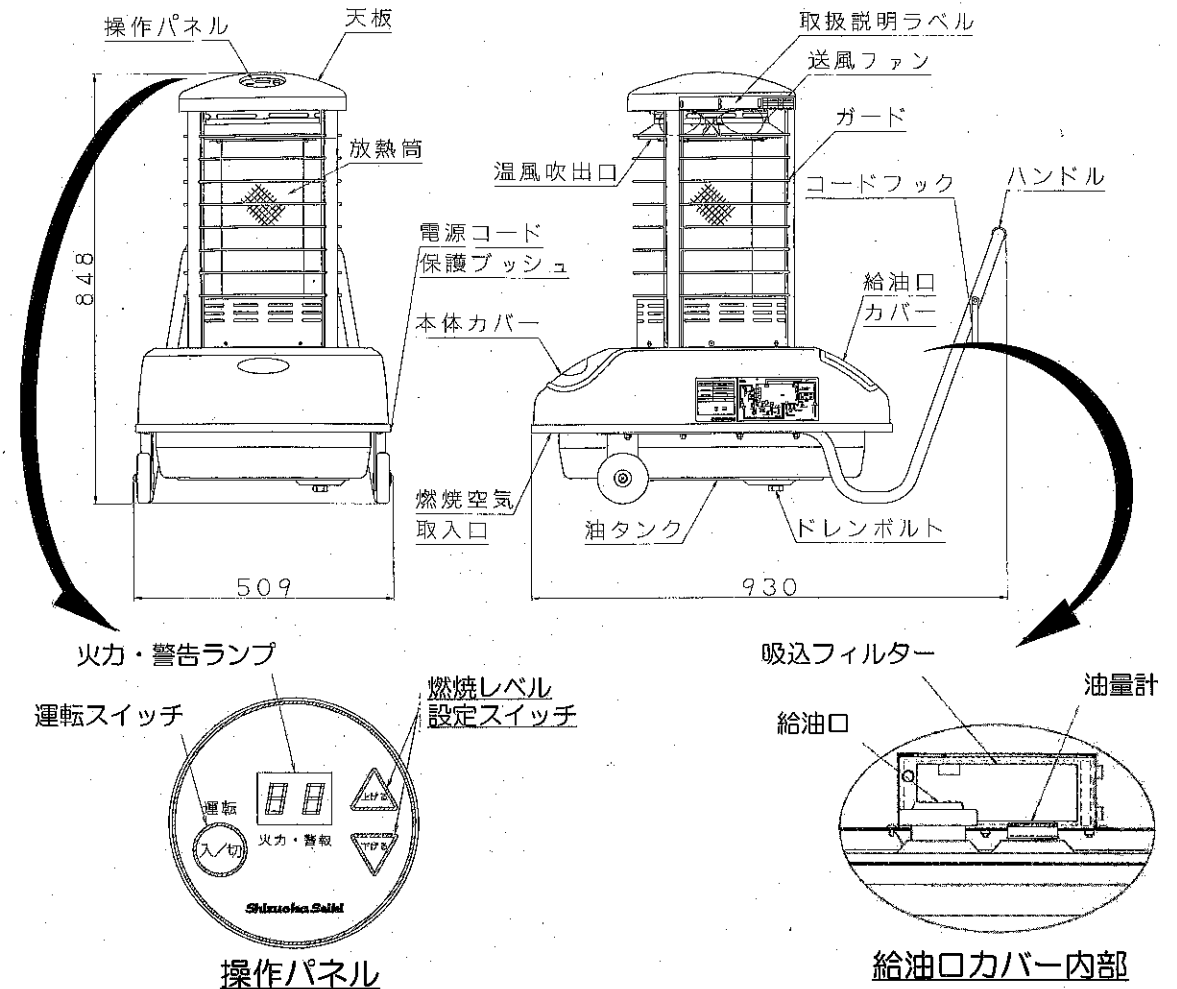
ヒータ運転中に停電しますと、しばらくの間ヒータ上面が高温になります。手など触れないでください。やけどするおそれがあります。

5-5 廃棄時の不法投棄禁止

ヒータを廃棄するときは、必ず専門業者に依頼してください。絶対に不法投棄はしないでください。

2. 各部の名前

本体



★安全装置の説明

炎監視 (フレームロッド)	点火ミスや燃焼中に失火したときに、自動的に消火します。 作動状態：火カ・警報ランプに「E1」が表示され、3分間のポストパーシを行います。
油切れ検知 (油面スイッチ)	タンク内の灯油の量が少なくなると、運転を禁止（燃焼中は自動的に消火）します。 作動状態：火カ・警報ランプに「E2」が表示され、燃焼中は3分間のポストパーシを行います。
過熱防止 (過熱防止器)	本体が異常に過熱されているとき、異常燃焼のとき、運転を禁止します。 (燃焼中は自動的に消火) 作動状態：火カ・警報ランプに「E3」が表示され、燃焼中は3分間のポストパーシを行います。
水検知	タンク内に水が混入しているときに、運転を禁止（燃焼中は自動的に消火）します。 作動状態：火カ・警報ランプに「E4」が表示され、燃焼中は3分間のポストパーシを行います。
対震自動消火 (感震器)	本体が振動を受けたり、傾いているときに、運転を禁止（燃焼中は自動的に消火）します。 作動状態：火カ・警報ランプに「E5」が表示され、燃焼中は3分間のポストパーシを行います。
ファン回転 異常検知	燃焼ファンの回転が異常なときに、運転を禁止（燃焼中は自動的に消火）します。 作動状態：火カ・警報ランプに「E6」が表示され、燃焼中は3分間のポストパーシを行います。
過負荷保護	機器の故障などの異常によって過電流が流れたときに、電源を遮断します。 作動状態：全停止します。
停電時安全	運転中の停電発生から電源が復帰したときに、自動的に運転を開始することを禁止します。 作動状態：火カ・警報ランプに「—」が表示され、待機状態になります。

※ポストパーシ：送風ファンによる冷却運転

### 3. 使用方法

#### 3-1. 運転準備

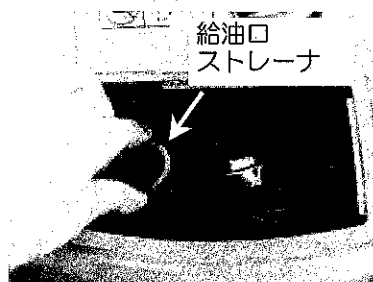
**⚠ 危険** ・ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

**⚠ 注意** ・給油は、必ず消火してから行って下さい。火災の原因になります。  
・電源は、単相交流100V（90～110V）を使用してください。間違った電源を使用すると火災、感電、故障の原因になります。  
・アースコードを接続してください。接続しないで使用すると感電のおそれがあります。  
・電源プラグを抜く時は、必ずプラグを持って行ってください。電源コードは、無理に曲げたり引っ張らないでください。電源コードが破損し、火災、感電の原因になります。

#### ★給油

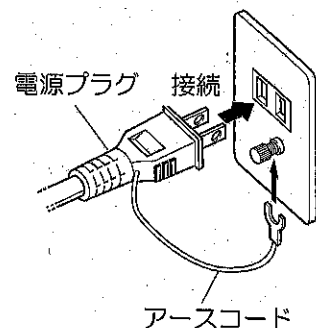
##### お願い

- ・給油ロストレーナにゴミが付いていないか点検してください。ゴミが付いていたら給油ロストレーナを取り出して、灯油で洗ってください。このときに使った灯油は、油タンク内に戻さないでください。
- ・必ず灯油（JIS1号灯油）を使用してください。変質灯油、不純灯油などは絶対に使用しないでください。故障の原因になります。



※ 変質灯油：昨シーズン持ち越した灯油や日のある場所または温度が高い場所で長期保管した灯油  
不純灯油：水やごみ、灯油以外の油が混入した灯油

- 1 給油口ふたを外して、給油ポンプを差し込んでください。
- 2 油量表を見ながら灯油を給油してください。油量表の目盛が「満」になったら、給油を停止してください。
- 3 給油口ふたを確実に締め、こぼれた灯油はウェスなどでふき取ってください。



#### ★電源の接続

- 1 電源プラグをコンセントに接続してください。
- 2 アースコードを接続してください。

#### 3-2. 運転操作方法

**⚠ 注意** ・におい、煙の発生など異常な燃焼を起こしたときは、直ちに使用を中止し販売店に連絡してください。そのまま使用すると火災の原因になります。  
・点火操作を3回繰り返しても着火しない場合は、それ以上点火操作を繰り返さないでください。火災の原因になります。使用を中止し販売店に連絡してください。  
・油タンク内が汚れたまま運転しないでください。着火不良や異常な燃焼を起こす原因になります。

#### ★点火操作

##### お願い

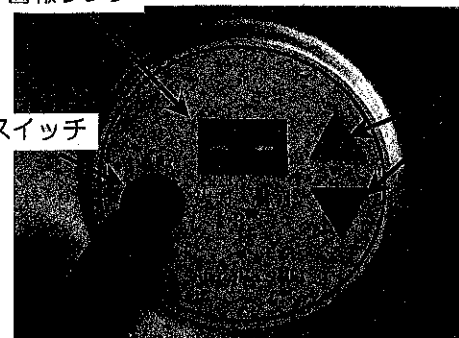
- ・着火の確認をするまで、離れないでください。火がついていないことがあります。

- 1 油量表で燃料が入っていることを確認してください。
- 2 運転スイッチを押してください。火力・警報ランプに燃焼レベルが表示され、数秒後に着火します。
- 3 1回の操作で着火しなかった場合、一度運転スイッチを押して運転を停止し、再度運転スイッチを押して運転を再開してください。

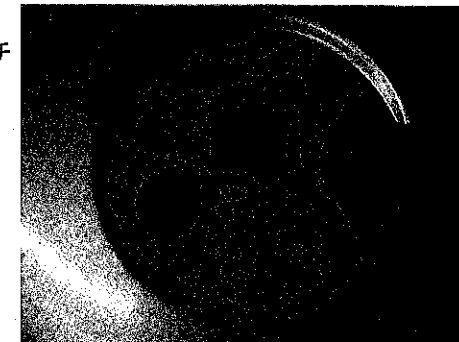
#### ★火力調整

- 1 燃焼レベル設定スイッチを押して、火力を設定してください。
- 2 火力・警報ランプに設定燃焼レベル（最小1～最大8）が表示されます。

火力・警報ランプ



燃焼レベル設定スイッチ



操作パネル (Operation panel)

#### ★消火

**⚠ 注意** ・消火操作をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。  
・電源プラグを引き抜いて消火しないでください。また、ヒータが完全に停止するまで電源プラグは引き抜かないでください。ヒータが過熱され、故障の原因になります。

##### お願い

- ・電源プラグをコンセントから抜く時は、送風ファンが停止したことを確認してください。

- 1 運転スイッチを押してください。燃焼が停止し、約3分後に送風ファンが自動的に停止します。

### 4. 点検・手入れ・保管

**⚠ 注意** ・点検、手入れをするときは、必ず消火し、電源プラグを抜いてから行ってください。感電のおそれがあります。  
・感震器の作動点検は、放熱部を持って行わないでください。やけどします。

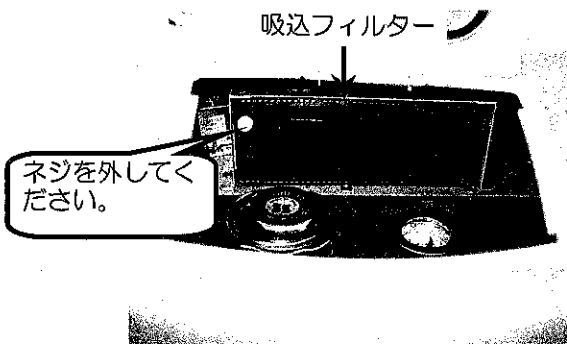
##### お願い

- ・給油ロストレーナの洗浄に使った灯油を油タンクに入れたり、油タンク内の点検時に取り出した汚れた灯油を油タンクに戻さないでください。故障の原因になります。

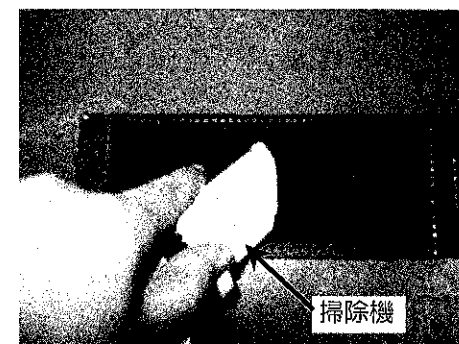
#### 4-1. 週に1回以上は

##### ★吸込フィルターの掃除

- 1 吸込フィルターを取り外し、掃除機などでほこり等を取ってください。



ネジを外してください。

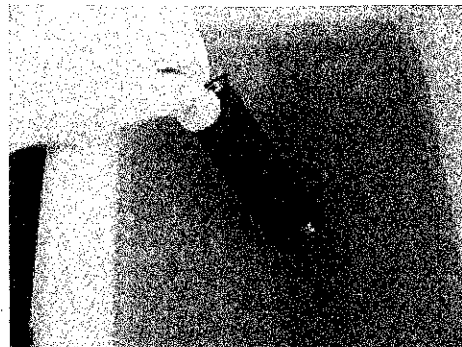
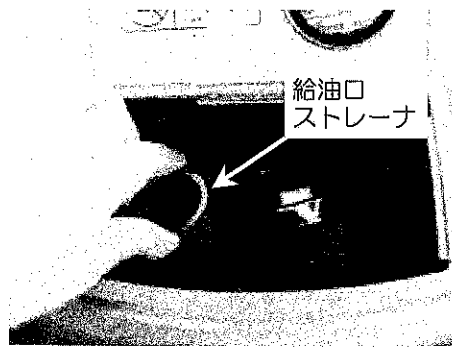


掃除機

#### 4-2. 1か月に1回以上は・・・

##### ★給油口ストレーナ汚れ点検

- 1 給油口ふたを外し、給油口にはめられている給油口ストレーナを外してください。
- 2 給油口ストレーナにゴミが付いたら、きれいな灯油で洗ってください。
- 3 給油口ストレーナを給油口にはめ込み、給油口ふたを確実に締めてください。



##### ★感震器の作動点検

- 1 燃焼しているヒータのハンドルを持ち、上下または左右に揺すってください。
- 2 火力・警報ランプに「E5」と表示され消火するか確認してください。消火しない場合は販売店に連絡してください。

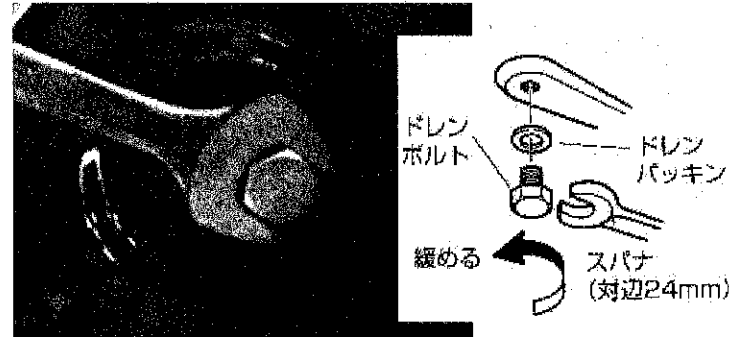
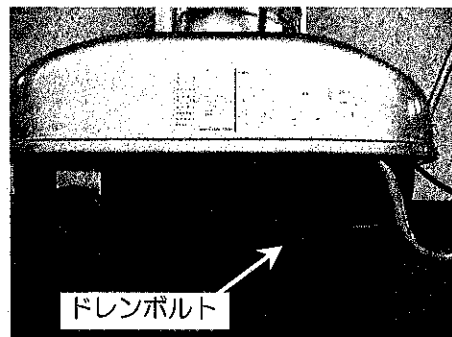
##### ★本体の汚れ点検

- 1 ヒータ本体周りにごみやほこりがたまっていないか、点検してください。
- 2 ほこりがたまっている場合には、掃除機で吸い取るか、ウェス等で拭き取ってください。

#### 4-3. 長期間ご使用後・・・

##### ★油タンクの水抜き

- 1 給油口ふたを外し、給油口ストレーナを外して、給油ポンプを差し込んでください。
- 2 給油ポンプが油を吸い込まなくなるまで、灯油を抜き取ってください。
- 3 給油口ストレーナをはめ、給油口ふたを確実に締めてください。
- 4 給油ポンプで取りきれなかった灯油または水の混じった灯油を排出しますので、約3分の空容器を用意し、ドレンボルトの下に置いてください。
- 5 次に、ドレンボルトをスパナなどで外し、油タンクをドレン側に傾けて、灯油を完全に排出してください。(このとき、ドレンパッキンをなくさないように注意してください。)
- 6 ドレンボルトにドレンパッキンを入れ、パッキンが密着し、油漏れがないように確実に締めてください。
- 7 油タンクについた油や水は、ウェスなどでふき取ってください。



##### ★定期点検

- 1 シーズン終了後などに販売店等に点検依頼をお奨めします。

#### 4-4. 保管 (長期間使用しない場合)

**△ 注意** ・長期間使用しないときや、保管するときは電源プラグを抜き、必ず灯油を抜いて、傾けたり、横倒しにしないでください。火災のおそれがあります。

- 1 給油口ストレーナと吸込フィルターを掃除します。(4-1・2参照)
- 2 ヒータ本体の汚れをふき取り、湿気の少ない場所に保管してください。

#### 5. 故障・異常時の処置方法

◎次のような症状は異常ではありません。修理を依頼される前に一度ご確認ください。

症状		原因
着火時	白煙が出る	放熱部で燃焼ガスが冷却されて出る水蒸気です。異常ではありません。
	炎の変化が激しい	燃焼用の空気量を変えているためです。異常ではありません。
	ピチピチ音が出る	バーナ部の膨張収縮音です。異常ではありません。
燃焼中	初めての使用で煙やにおいがする	ほこりや油分などが焼けるためです。しばらくするとなくなります。
	黄色い炎がチラチラする	多少のチラツキはあります。異常ではありません。
	火力がすぐに変わらない	火力調節はゆっくりと行います。異常ではありません。
消火時	においがする	バーナ内部の未燃ガスで多少のにおいは出ます。異常ではありません。

下記以外の症状の場合、または処置方法に従って処置しても直らない場合は、お買い求めの販売店、または最寄の弊社営業所へお知らせ下さい。その際に、症状の他、ヒータの形式名、製造番号をお知らせください。製造番号は、本体カバーの側面に貼付してある「仕様ラベル」(P. 10参照)に記してあります。

##### 警報表示 (火力・警報ランプ)

表示	原因	処置方法
E 1 (失火)	火が消えています。	運転スイッチを2回押し、もう一度着火してください。
E 2 (燃料切れ)	燃料が切れました。	灯油を油タンクに入れてください。その後、運転スイッチを2回押し、もう一度着火してください。
E 3 (過熱)	部屋の温度が高すぎます。	部屋の温度は30℃以下でお使いください。
E 4 (水検知)	油タンクに水がたまっています。	油タンクの水を抜いてください。(P9, 油タンクの水抜き)
E 5 (感震器)	振動を感知しました。	振動のない場所でお使いください。また、ヒータに火がついたまま動かさないでください。
	設置面床が傾いています。	水平な床でお使いください。
E 6 (ファン回転異常)	燃焼ファンの回転が異常です。	電源の電圧は90V~110Vでお使いください。

※ 警報表示は運転スイッチを2回押しと解除されます。

##### その他の症状

症状	原因	処置方法
全く動かない (表示も出ない)	電源が入っていない。停電している。	電源を入れてください。
全く動かない (表示は出る)	送風モータのサーマルが切れている。	販売店に連絡してください。
全く動かない (表示は出る)	安全装置が作動している。	安全装置を確認してください。 (P. 5参照)
においが強い	サーモスタットまたはタイマーが動作中である。(「-」が表示)	サーモまたはタイマーを確認してください。
においが強い	燃料が不良(変質灯油・不純灯油)である。	油タンクを掃除して、きれいな灯油を入れてください。
異常燃焼する	吸込フィルターが汚れている。	吸込フィルターを掃除してください。
	燃料が不良(変質灯油・不純灯油)である。	油タンクを掃除して、きれいな灯油を入れてください。

※ 異常燃焼：炎が吹き飛びまたは赤い炎が異常に立ち上がる、燃焼音が異常に大きいなど通常と異なった燃焼。

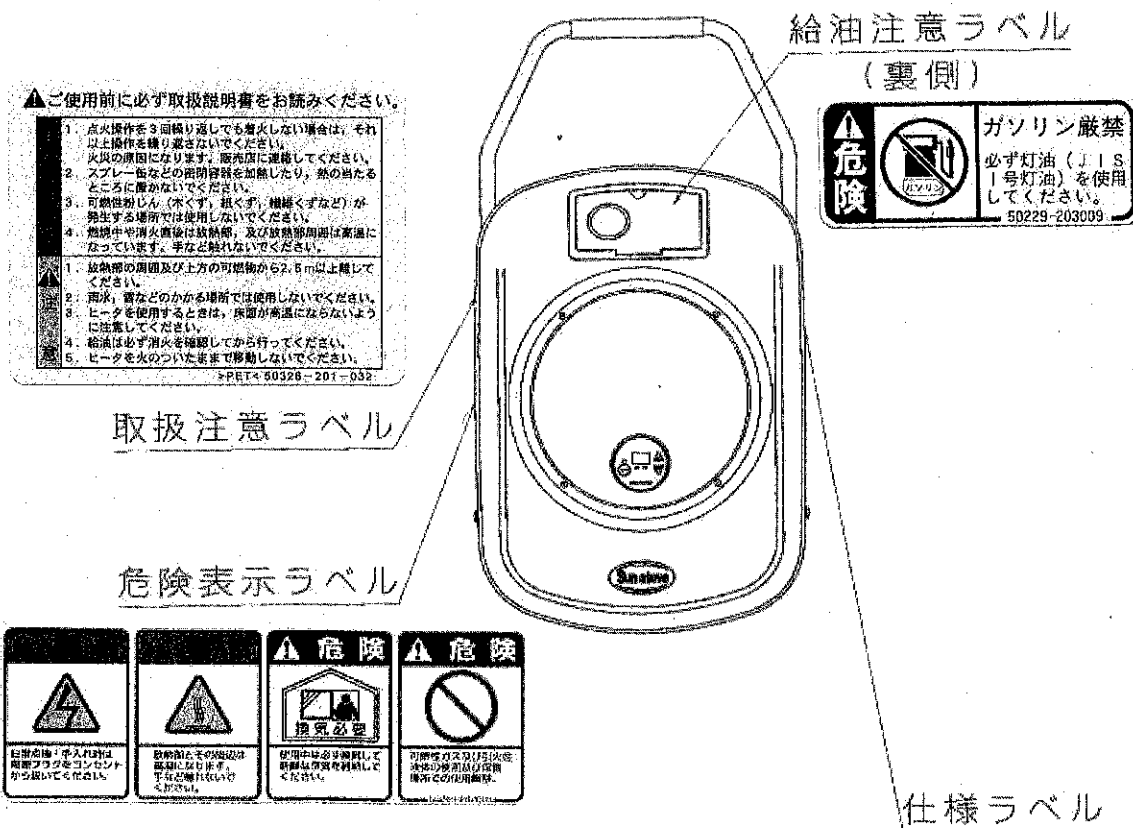


## 6. 仕様

形式	SSN4
種類	放射式直火形
点火方式	高圧放電点火
使用燃料	灯油（JIS1号灯油）
燃料消費量	0.68~1.4kg/h 0.85~1.7l/h
熱出力	8.3~16.5kW 7,100~14,200kcal/h
油タンク容量	20l
燃焼持続時間	11時間（最大レベル燃焼時）
外形寸法	高さ848mm×幅509mm×奥行き930mm
質量（タンク空時）	27kg
電源電圧	AC100V（50/60Hz）
消費電力	点火時：70/67W 燃焼時：37/36W [50/60Hz]
電流ヒューズ	1.5A
運転音	48dB（A）
安全装置	対震自動消火・炎監視・過負荷保護・過熱防止・油切れ検知 水検知・ファン回転異常検知・停電時安全
付属品	ヒューズ

## 7. 安全ラベルの一覧

安全ラベルは、ヒータを安全にお使いになるために重要なものです。はがしたり、汚したりしないでください。ラベルの文字が消えたり、読みにくくなった場合は、販売店に注文して貼りかえてください。



形式	SSN4
種類	放射式・直火形
熱出力	8.3~16.5kW
（レベル1～レベル5）	7,100~14,200kcal/h
燃料消費量	0.68~1.4kg/h
（レベル1～レベル5）	0.85~1.7l/h
使用燃料	灯油（JIS1号灯油）
油タンク容量	20l
定格電圧	100V
定格消費電力	点火時 70/67W 燃焼時 37/36W
定格周波数	50/60Hz
製造番号	

配線図

## 8. 別売部品について

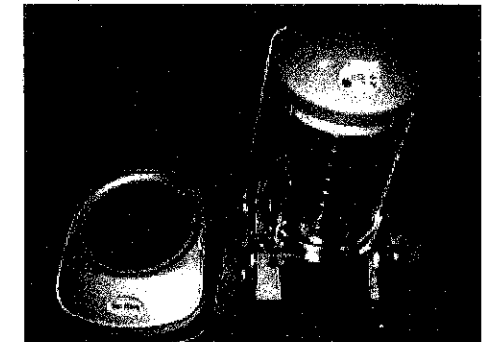
**△ 危険** ・別売部品を取り付けるときは、電源プラグを外して行って下さい。工具などの金属部分が電装部品に触れますと、感電・破損のおそれがあります。

名前	使い方
サーモスタット	A 部屋などを暖めて、設定温度に保ちます。設定温度は-10~60℃。
	B 部屋などを暖めて、設定温度に保ちます。設定温度は0~100℃。
	C 部屋などを暖めて、設定温度に保ちます。設定温度は40~90℃。
タイマー	時間によって運転を行ったり、止めたりする時に使用します。 24時間タイマーで15分刻みの設定ができます。

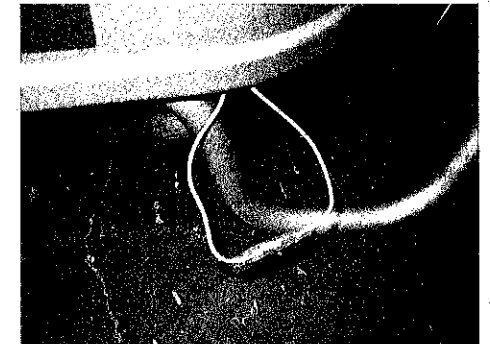
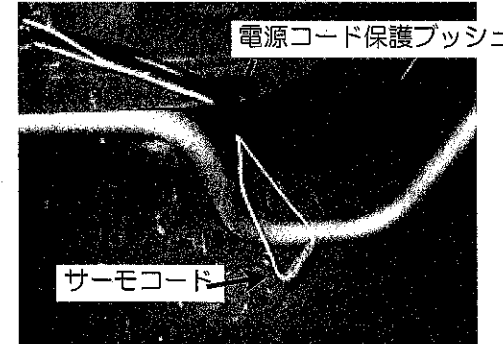
### サーモスタット・タイマーの取付方法

**△ 注意** ・サーモスタットの温度感知部は、温風が直接当たるところには、設置しないでください。直接当たると燃焼、消火を頻繁に繰り返し故障の原因となります。

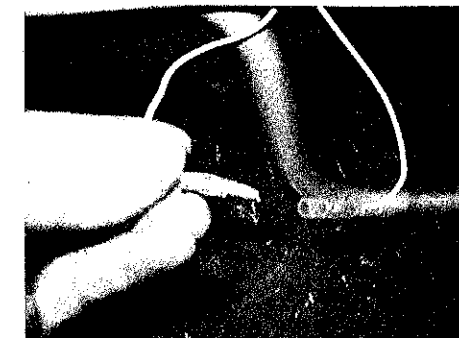
1 固定ネジ（4本）を外し本体カバーを取り外します。



2 サーモコード（白いコード）を電源コード保護ブッシュに通してください。



4 サーモコードの端子を外してください。



5 サーモコードの端子にサーモスタットあるいはタイマーのコードの端子を接続してください。

